

中央公論美術出版

毘沙門天像の成立と展開

佐藤有希子（奈良女子大学准教授） 著

定価 17,600 円（本体 16,000 円＋税 10%）

A5 判上製函入 口絵 16 頁 本文 668 頁 ISBN 978-4- 8055-0958-6 C3071 2022 年 3 月刊



古代インドに淵源をもつ毘沙門天がどのように信仰され、
また関連する美術作品を生み出してきたかという問題について考察する。
東アジアの仏教において大変重要視された毘沙門天が、
中国、朝鮮、そして日本へと伝播した過程と、
奈良時代（8 世紀）から南北朝時代（14 世紀）における
受容の様相を明らかにする——

毘沙門天はいかにして四天王から独立し、信仰されたのか

目次 概略

諸言 本書の視角

第一部 毘沙門天像の成立と伝播—東アジア編—

序 王朝の守護神

第一章 西域の守護神—盛唐以前—

第二章 盛唐の崩壊と毘沙門天信仰の浸透—中唐から五代十国—

第三章 唐代文化の周縁における毘沙門天像の変容—敦煌、朝鮮半島—

第四章 再び舍利の守護神へ—北宋—

第五章 南宋・元における毘沙門天造像と周辺王朝浸出の一例として

—大理国地藏寺経幢—

第二部 毘沙門天像の受容と展開—日本編—

序 舍利の守護神から現世利益のカミへ

第一章 毘沙門天信仰前史—奈良時代—

第二章 東寺毘沙門天像の請来—平安時代初期—

第三章 毘沙門天像の地方展開—平安時代前期—

第四章 東寺毘沙門天像を模刻する意味—平安時代中期—

第五章 毘沙門天と来迎—平安時代後期—

第六章 平安時代中後期における毘沙門天像造顕と貴族社会

第七章 東寺毘沙門天像模刻の再燃と終焉—鎌倉時代—

第八章 毘沙門天信仰の変容—南北朝時代—

終章 毘沙門天像と東アジア世界の時空間

あとがき

史料一覧／図版出典一覧／

英文要旨／中文要旨／ハンダ要旨／索引

【著者略歴】 佐藤有希子 (さとう・ゆきこ)

1982年生

最終学歴：東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。
博士(文学)。

現所属：奈良女子大学文学部准教授

著作等：「青蓮院伝来毘沙門天像に関する一考察」板倉聖哲・高岸輝編『日本美術のつくり方』(羽鳥書店、2020年)、「唐宋時代の毘沙門天像—王朝の守護神—」特別展図録『毘沙門天 北方鎮護のカミ』(奈良国立博物館、2020年など)

関連書籍

東アジア仏像史論

藤岡 穰 著

定価 19,800円 (本体 18,000円+税)

日本(飛鳥～鎌倉時代)、中国(南北朝～宋時代)、朝鮮(三国～統一新羅時代)の東アジア各地域・時代の彫塑造の様式展開をたどり、さらには科学的調査の結果に基づいた長年にわたる研究の成果から精選・集成された論考により、東アジア仏像史研究に新たな地平を開く。

A5判上製函入 本文772頁 口絵16頁 ISBN 978-4-8055-0893-0

八部衆像の成立と展開

水野さや 著

定価 15,400円 (本体 14,000円+税)

奈良・興福寺の脱活乾漆像八部衆像で名高い「八部衆像」。その図像と群像形式は、いかにして形成されたのか。八部衆像の源流を六世紀の中国に求め、その後の東アジア—中国、韓国そして日本—での展開を、丹念な現地調査で得た現存作例から明らかにする、「八部衆像」論の決定版。

A5判上製函入 本文444頁 口絵16頁 ISBN 978-4-8055-0791-9

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1

IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お問い合わせ